

今年は敗戦40周年＝学童疎開40周年 平和教育の礎として記念誌、記念碑を

二月一日の川教組第二四五回中央委員会において、「川崎学童疎開記念碑建設事業に関する件」が、次期中央委員会まで職場で討議をすすめる内容として決定されましたので、その資料を提供します。

わたしたちはこれまで、一貫して戦争に反対し、平和を守るたかいを強めてきました。護憲・反核・軍縮のとりくみと同時に、最も責任を果すべき教育の分野で、平和教育を推進してきました。この情報の第一面のように、四・一五の川崎空襲の日をきっかけとする実践も年々深められてきました。加えて、「学童疎開」の実態を明らかにし、それにちなんだ事業を、平和教育の視点を中心にとりくむことは、大きな意義があると考えます。

子どもたちの心に永遠に 提案の趣旨

今日、米ソの激しい核軍拡競争の中で、平和に対する脅威は年々高まりつつあります。一方、戦争体験の年代は次第に遠くなりつつあり、川崎の学童たちが、戦争中どのような状況下におかれていたかも、だんだんと忘れ去られようとしています。

時、あたかも本年は、敗戦四〇周年にあたり、同時にそれは、学童疎開の解散四〇周年ということでもあります。川崎の学童疎開は、別表のように行われました。そのようすは、一九八二年川教組発行の「平和を求めて」小学生用に、「米須清博君の爆死——大山正幸」——「もらい湯の楽しみ——森野謙二」に載っており、近く発刊予定の「パネル集」写真で見る川崎の空襲——平和教育資料集にも掲載されています。

数千人にのぼる川崎の疎開学童の実態を改めて明らかにし、疎開先の適地にその記念碑を建設することによって、困難な中で多数の川崎の子どもたちを受け入れて協力をいただいた多くの方への感謝の気持ちと、再びこのような事態をくり返さない誓いとするには有意義な事業です。

また、その記念碑・記念誌が、現在と未来の川崎の子どもたちにとって、地域と地域とを結び、そこに根ざした平和教育の教材として生かされていくことは、永遠に確認できる意味あるものといえます。それは、川教組の運動の歴史からもぜひ実現させたいとくりくみであると確

職場討議資料

当時それにかかわった学童・教職員等による感想文を募集して記念誌を発行します。

② 川崎市の学童疎開先を代表して大山町（現伊勢原市）の適地に記念碑を建設します。

(2) 事業をすすめるための組織
① 仮称「学童疎開記念碑建設実行委員会」を、趣旨に賛同する団体ならびに個人により構成します。

② 事務局を川崎市教職員組合におきます。

(3) 事業をすすめるための財政確立
○ 川崎市からの補助金 ○ 川崎教育文化研究所からの補助金（主任手当の拠出金、八五年度予算から約一〇〇万円程度） ○ 市民、教職員からの寄付金（一口

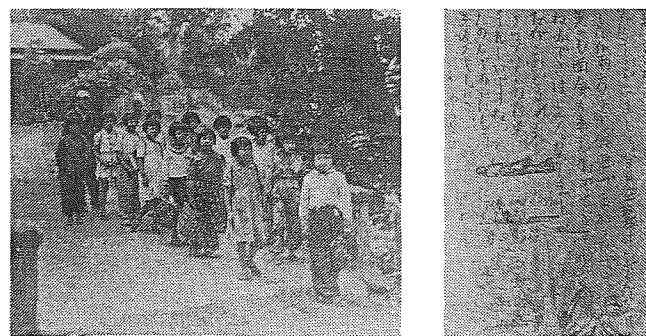


疎開先で農作業を手伝う子どもたち

認めます。

八・一五に除幕を 事業のあらまし

(1) 事業内容
四〇周年である本年八月一五日を目途に
① 川崎市の学童疎開の実態を明らかにすると同時に、



疎開先の農家の庭にならぶ子どもたちと両親に出した手紙

一、〇〇〇円程度として広く賛同を呼びかける）等で
総額一、〇〇〇万円を目標とします。

賛同の輪を広げよう 三月五日に決定

以上の内容について、各職場で意見をまとめ、次期中央委員会（三月七日予定）で決定することとします。

執行部としては、この事業の成功のため、関係機関や賛同を求める団体などに話しをすすめており、市長をはじめ多くの好意ある声をいただいております。

当時の疎開学童は現在五三才―五八才ということですが、この事業が広く市民の知るところとなり、想い出の寄稿や寄付金が多く寄せられることになるよう、わたしたち自身も可能な限りのとりくみをしていきたいと思います。

さまざまな分野で、平和闘争を強めていきましょう。

川崎市の学童疎開

- 川崎北西地区 4校（1131人）
柿生＝大島小（277人） 生田＝桜本小（187人）
登戸、稲田＝小田小（351人）
向丘、橋＝渡田小（316人）
- 大山地区 9校（3225人）
旭町小（455人） 大師小（654人）
富士見小（372人） 玉川小（355人）
向小（207人） 宮前小（369人）
御幸小（301人） 住吉小（371人）
平間小（141人）
- 大山地区をのぞいた中郡 9校（2317人）
大田村＝南河原小（131人） 旭、金田村＝日吉小（200人）
神田村＝田島小（250人） 比々多村＝幸町小（178人）
田崎、金目村＝川崎小（491人）
豊城、田島村＝新町小（241人）
成瀬、相川村＝前沼小（250人）
伊勢原町＝川中島小（345人） 高部屋村＝高津小（231人）
以上22校（6673人）
（人数は昭和19年8月、川崎出発時の児童、教師の合計数で、すべて「川崎空襲、戦災の記録」による。）

具体的推進にむけての
で行われます
全日全員の賛同が参加